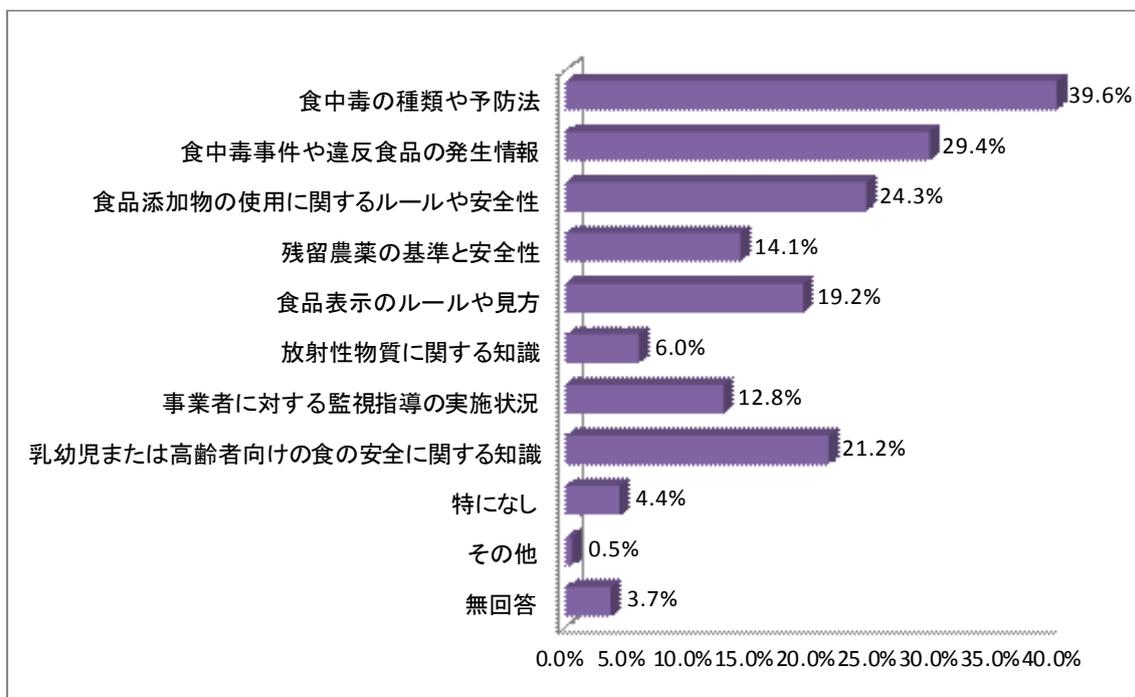


(7) 食の安全・安心に関する情報について

問8. 県では、食品の検査結果や食中毒注意報*をホームページやメールマガジンで提供していますが、食の安全・安心について特に発信してほしい情報は何か？
(2つ以内選択)



(N = 1,277)

多いものから順に、「食中毒の種類や予防法」39.6%、「食中毒事件や違反食品の発生情報」29.4%、「食品添加物のルールや安全性」24.3%となっており、前回の調査結果と同様にこの3項目が他と比較して高い割合となりました。

また、今回の調査で新たに追加した項目である「乳幼児または高齢者向けの食の安全に関する知識」については21.2%となっており、上記3項目について4番目となっています。

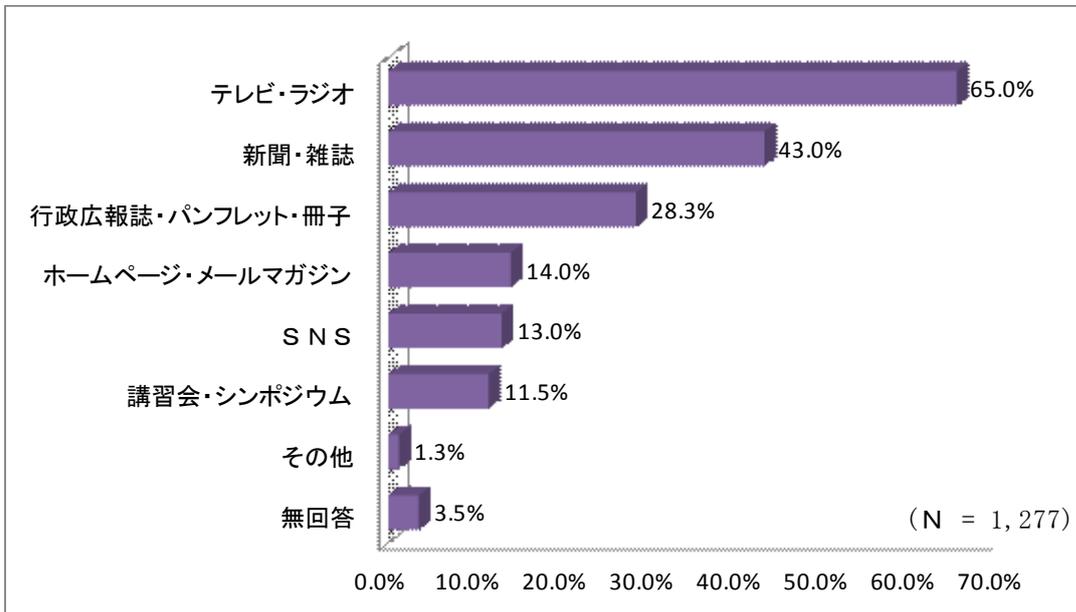
*「食中毒注意報」

細菌性食中毒が発生しやすい気象状況になったとき、消費者及び食品関係者に対して、食品の適正な取扱い等について注意喚起を行うことで、未然に食中毒の発生を防止することを目的として発令しています。

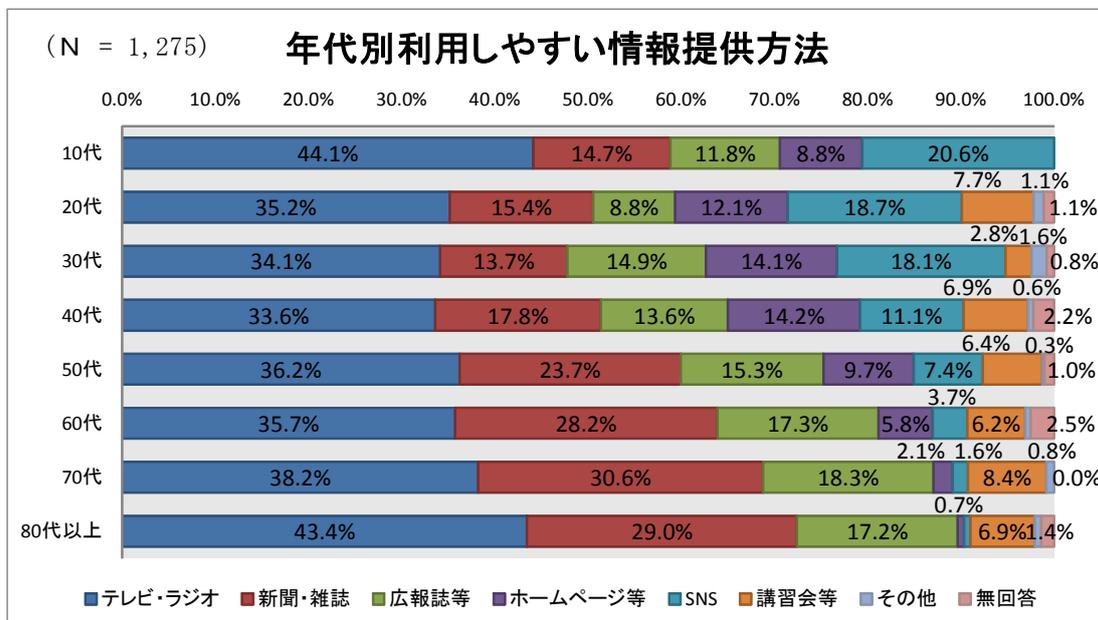
○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- 栄養の効果的な摂取方法（40代）
- 海外との比較（40代）
- 常時進捗状況の発信は大切（20代）
- 生産者の名前（80代）
- 地域性のある情報（水質汚濁情報、個別事業者別食中毒発生情報、事業者別監査結果情報など）をタイムリーに発信し、かつその情報は保存し、いつでもだれでも検索できるようにしてほしい。（50代）

問9. 食の安全・安心に関する情報は、どのような方法で提供されれば利用しやすいですか？（2つ以内選択）



多いものから順に、「テレビ・ラジオ」65.0%、「新聞・雑誌」43.0%、「行政広報誌・パンフレット・冊子」28.3%という結果になりました。また、年代が低い人ほど「SNS」や「ホームページ等」等の電子媒体を、年代が高い人ほど「新聞・雑誌」、「行政広報誌・パンフレット・冊子」等の紙媒体を選択する傾向がありました。



○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- WEB ニュース（30代）
- SNS を利用した方が拡散されやすい。（20代）
- アナログ人間にとって情報は収集しにくい。（70代）

- 安価な方法で繰り返し、広報に 100%はないと思います。(70代)
- 医師 (40代)
- 行政広報誌は読む人と読まない人がありますが、それ以外の方法だと信用性の問題があると思います。サプリメントの広告などと同じで乱発すると何を信じていいかわかりにくくなる。(30代)
- 市民生協で添加物の学習会をしました。分かりやすく参考になりました。(70代)
- 食の安全を示す許可証を販売物ごとに展示。(80代)
- 全ての衛生管理などの情報は HACCP など国際基準に従って発信してほしい、どこで提供されても答えがバラバラで困る。(30代)